

# 常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 4年 10月 21日(金)

その1 通算 269号

## ◇ 「学びの成果を発表する」

明日は「学習発表会」。今年度は、入場者制限や観客の入れ替えは基本的には行わないが、保護者の皆様ならびに地域の方々には1点だけ心遣いをお願いしたい。

子供たちの学びの成果をご家族の方にしっかり見ていただくのが、本行事の「ねらい」の一つ。よって、**観客席最前列と2列目の席**は、**発表するお子様のご家族が利用**できるようご協力いただけるとありがたい。

さて、自分の小学校時代の話になるが、多くの学校が「学芸会」であったのに対し、当時は珍しかった「学習発表会」であった。おそらく歌唱や演奏が組み入れられていたことに対するネーミングだとは思いますが、「劇」がなかったわけではない。

低学年は教室を会場とした「劇」で、中学年以上は体育館で「劇+集団演奏」であった記憶がある。当時の発表会は2月。まさに学年の締めくくりだった。

強烈な記憶として残っているのは上学年の「創作劇」だ。特に6年生は「ぼく、わたし小学生」という劇のタイトルまで覚えている。台本はいずれも担任が構成。挿入曲は井上陽水オンリーで、いわゆる担任の趣向だ。おかげで、当時の子供たちは、意味は理解できずとも「♪行かなくちゃ ♪きみに一逢いに行かなくちゃ ♪きみの一街に行かなくちゃ… ♪つーめたーい雨が 今日は一 心に沁みるー♪」と、フォーク全盛時代の「傘がない」が歌えたものだ。決して好きではなかったが…。

来る日も来る日も練習があり、時には一日中なんてのもあった。今となっては、学習内容が今よりも多かった当時に、全ての学びが完結できたか心配になるところだが、困ることはなかったので、何とかやり繰りしていたということだろう。

大小の道具も自作だ。**練→錬→囿→囿→囿→錬** などの変則日課も記憶にある。

そう考えると、本校の担任陣は本当に効率がよい。そして、発表に向けて計画的に準備しているのには感心する。さらに練習に追われることなく、きっちり授業を行っているところが素晴らしい。これは、上・中・下学年の2学年合同の演目に行っていることが要因にある。2学年同時でしか練習できないことや、体育館使用の練習時間が確定していることで、日々の授業をしっかりと確保できるわけだ。

本校の「学習発表会」の目的は、あくまでも【日々の学習の成果を発表する会】であり、【蓄えた学びの成果を仲間とともに発揮する会】。土台は授業である。

## <学習発表会プログラム>

学 年	発表時間	発 表 内 容
1・2年	8:55 ~ 9:10	・「音楽劇 サウンドオブミュージック」 ～ドレミの歌～
篠笛・獅子 (4・5・6年)	9:20 ~ 9:30	・篠笛「たこたこあがれ」「ぼたるこい」 ・伝統芸能「常磐獅子」
合唱 (1・2・3年)	9:40 ~ 9:45	・合唱「幸せなら手をたたこう」 *伴奏：6年大山
3・4年	10:00 ~ 10:20	・「岡崎に学ぼう」 リコーダー奏、合唱
5・6年	10:30 ~ 10:50	・「つなげよう 輝く未来へ」 倍唱、合奏、合唱

☞左が学習発表会のプログラム。

昨年から1演目増だが、これは第3演目の「低学年の合唱」が追加されたため。これは、当初、敬老会の出し物として準備してきた演目。

敬老会の縮小開催により発表の機会を失っていたが、学習発表会での披露という形で演目に追加している。

それでは、各演目のプチ紹介。まずは1・2年生の音楽劇「サウンド オブ ミュージック」。



挿入曲は映画のまま。つまり、実際の映画を見たことのある観客は、映画の場面が結び付く。場面は「マリア先生との出会い」・「高原のドレミの歌」・「子供たちが眠る前」。  
さらに、劇だけでなく「合奏」も+α。声もよく出ており、見応えばっちりだ。



続いて、3・4年生の創作劇「岡崎に学ぼう」。完全オリジナル劇だが、社会で学習した「岡崎の歴史と地理」の内容がしっかり落とし込まれている。勢いがあり、なおかつ張りのある演技で、子供たちのよさが前面に出ている点もよい。しかも勉強になる。音楽的要素は、合奏と合唱で、内容も盛りだくさんだ。



締めくくりは、5・6年生の「つなげよう 輝く未来へ」。これも完全創作劇だが、台本づくりに6年生も関わっているすぐれもの。

2年前からの定番「英会話」もしっかりと盛り込まれ、合奏・合唱とこちらも充実。

中でも一番の見所は古典(国語)だろう。観客の誰もが学んだ懐かしのフレーズ暗唱の披露あり。「さすが上級生」といったところ。

加えて、第2演目は伝統芸能「常磐獅子」。今年の篠笛は絶品だ。お楽しみに!!!